



2019年11月3日(祝日)、イオンモール高崎にて行なわれたミニコンサート。そっと目を閉じれば、気分は年の瀬。聖夜の演出もたっぷり!

第九の合唱で、地域の心をつなぐ

音楽のある街 群馬県・高崎市にて、ベートーベン交響曲第九番の「合唱」を歌うことを目的に、1974年に立ち上がった市民合唱団「高崎第九合唱団」。創立以来46年間、群馬交響楽団とともに毎年12月第3週に舞台に立ち、地域文化の振興と国際文化交流に寄与するべく年間を通じて週一回の練習に励んでいる。団員は最年少の小学6年生から最年長84歳まで、老若男女305名。“第九は世界の共通語”とばかりに、クラシック音楽が生まれたドイツやポーランドでの海外公演を行い交流を図る一方で、地域のコンサートでも合唱の魅力を披露している。

「第九というとハードルが高いように思われがちですが、難しく考える必要はありません。この歌は、自由と友愛を求めるフラ

ンス革命前の市民たちによる平和への願いに、ベートーベンが共鳴して作曲しました。したがって高崎第九合唱団は、歌が好きならば誰でも参加可能。いつの世も変わらぬその思いを、ここ高崎市の地から世界に向けて発信出来たら」と、団長の赤羽洋子さん。普段の練習から、ドイツ語の歌詞を紐解き、歌詞に込められた思いを団員全員で共有する。

黄色いレシートキャンペーンには2010年から参加。還元されたギフトカードは、会報誌「Daiku Times」の紙代に充当している。練習時に毎回手渡しされるA3カラー用紙には、楽しい情報がびっしり。この会報誌を休憩時間に読み合うのが、団員の楽しみになっているようだ。



上 / 練習時に欠かさず配られる会報誌「Daiku Times」。大所帯の団員同士のコミュニケーションを図るべく練習日程、活動レポートのほかに団員の誕生日なども掲載されている



発声練習には、柔軟体操も組み合わせて行う。パート練習の時も、全体練習の時にも譜面を見ずに、指揮に集中して、それぞれの気持ちを合わせているのが印象的だった

はぶんの買物でだれかを幸せにするしくみ。
イオン 幸せの黄色いレシート since 2001

毎月11日の「イオン・デー」にレジで発行される黄色いレシートを、応援したい地域の団体のBOXに投函。集まったレシートの合計金額の1%相当の品物をイオンが該当団体に寄贈します。支援が必要な団体と、応援したい地域のお客さまをつなげる仕組みです。

NPO法人高崎第九合唱団を音楽的・精神的に支え続ける団長および指揮者の赤羽洋子さん